



TITLE:

第2日(午後の部)

AUTHOR(S):

CITATION:

第2日(午後の部). 物性研究 1973, 21(1): F59-F59

ISSUE DATE:

1973-10-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/88675>

RIGHT:

第 2 日 (午 後 の 部)

まず、鍋木氏の講演は、固体表面に吸着した原子・分子の秩序構造に関する Classical Lattice Gas Model の適用について述べたものであった。このような解析から得られる相互作用パラメタ J_k についての情報が、ミクロスコピックな理論に刺激を与えることが望まれる。

ついで、安藤、松本、大川氏によって、植村研で行われている表面反転層の電子状態の解析が紹介された。安藤氏の強磁界下における多体効果、松本氏の凹凸による散乱、大川氏の Narrow-Gap Semiconductors の表面層電子状態の議論は、それぞれ理論的に興味ある問題であるばかりでなく、実験と強く結びついた問題という点でも重要である。今後更に詳細な検討が進むことが期待される。 (御子柴宣夫)